

新たに発生が確認された病虫害(*)、今後の発生に注意を要する病虫害等 (令和4年)

農作物名	病虫害名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
ながいも	貯蔵腐敗症状 【局所発生】	五戸町	令和4年 5月下旬	5月上旬に収穫し、土付きのまま冷蔵貯蔵されたながいもにおいて、現地では「スポンジ症」と呼ばれる芋の表面が褐色に変色腐敗する症状が5月下旬に持ち込まれた。腐敗部位から分離された細菌の病原性、細菌学的性状解析及び遺伝子解析を行った結果、ヤマノイモ腐敗細菌病菌 (<i>Pseudomonas allii</i>) の近縁種による障害と考えられた。 (三八農業普及振興室・野菜研究所)
大豆	イチモンジ カメムシ*	つがる市 大鱈町	令和4年 7月9日 7月21日	7月上旬～9月にかけて、つがる市と大鱈町に設置したイチモンジカメムシ用フェロモントラップに、少数の誘殺が断続的に認められた。その後、大鱈町の大豆ほ場では、10月6日に次代成虫20頭弱、終齢幼虫5頭を地表付近から捕獲し、少なくとも、大豆を加害し世代が回ったことが確認された。 (農林総合研究所)
トルコギキョウ	斑点病*	つがる市 田舎館村	令和4年 9月15日 10月8日	9月中旬、津軽地域のトルコギキョウにおいて下位葉に黒灰色～黒色のすす状病斑が認められた。病虫害防除所で罹病葉を検鏡したところ、この病斑上の小黑点(分生子座)及び分生胞子の形態的特徴から <i>Pseudocercospora nephroides</i> による「トルコギキョウ斑点病」であることが確認された。 (中南農業普及振興室・西北農業普及振興室・病虫害防除所)
デルフィニウム	疫病*	—	令和4年 (新たな病原菌の記録)	平成22年及び平成23年に西北地域の一部施設で発生したデルフィニウム疫病について、有性器官などの形態、病原性、ITS及びcox1遺伝子分析の結果、病原菌は新種の <i>Phytophthora kelmanii</i> と同定された。なお、本病は発生施設の防除徹底により、平成24年以降は発生していない。また、ほかの生産地域での発生も確認されていない。 (農林総合研究所、岐阜大学)